

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年4月28日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」
「強く かしこく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」
望ましい子どもの姿
「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子」

2. 本年度重点目標・計画

私たちは杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園をめざします。
・教育課程を見直し改善を図る……幼稚園教育要領等をふまえ、園の教育方針・教育目標に従って教育課程の編成にあたる。指導計画に基づいて計画的に保育を進め、振り返りや反省を行う。
・教職員の資質向上(研修・情報共有等)……子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う。公開保育を互いに見合い、子ども理解を深め指導力の向上に努める。
・特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)……支援を必要とする子どもの特性を理解し、一人ひとりに応じた関わりを心がける。
・安全管理体制の強化……新型コロナウイルス感染防止対策に努めるとともに、子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入園式直後から4月・5月と休園や登園自粛期間となり、予定通りのスタートが切れなかった。再開後も、消毒・換気・密にならないように感染対策をとりながらの保育活動となった。その中で慌てることなく、子どもたちの育ちにつながる体験活動を多く取り入れ、主体的に楽しんで取り組めるよう指導計画(年間・月間・週・日案)を立て直した。その結果、丁寧な保育ができ成果を上げることができた。 ・保育部2歳児クラスと幼稚園部満3歳児クラスとの交流を定期的実施した。相互理解が進み、年少組へのスムーズな接続を図ることができた。
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	・コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた研修会の多くが中止となった。代わりにズームやビデオ通話等を使用したオンライン研修会に積極的に参加し、保育者の資質向上に努めた。 ・理事長から宮地学園の教育理念と教育理念への想いについて全職員が研修を受け、これまで学園が積み上げてきた歴史と伝統、大切にしてきた心を共有することができ、日々の保育に生かすことができた。 ・幼稚園部全クラス、保育部2歳児クラスで公開保育を実施した。幼稚園部全園児で異年齢縦割り班を作り、その班で研究保育を行った。日々の教育・保育の反省や振り返りを通して、先生たちが互いに学び合うことができた。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門機関と連携を図り、園内研修を行いながら教職員の保育技術の向上に努めた。また必要に応じて個別の教育支援計画を作成し、子どものつまづきに応じた支援を行うことができた。 ・年長児の支援の必要な子については引継ぎ支援シートを作成し、小学校と連携を取り合い、スムーズな幼小接続ができるように心掛けた。 ・全教職員が職員会などを通して、子どもの特性や保護者の思い等の情報を共有し適切な支援をすることができた。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の時間中、園児が園庭で遊んでいて遊具から落下、右手肘を骨折する怪我が発生した。反省点として、遊具を使った遊び方の指導の不十分さと、保育者の配置・気配りが足りなかったことがあげられた。子どもが自由遊びをしている時に怪我が起きやすい。園児の安全に対する意識を高めるとともに、園庭全ての場所に目が行き届くように保育者の配置を見直した。 ・遊具や用具などの定期的な安全点検を行っているが、気になることがあれば課題を共有し、安全な環境作りに務めている。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切に質の高い教育・保育を実践することができたとし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1 教育内容	新型コロナウイルス感染防止対策のためいろんな制約がある中で、慎重に丁寧に一日一日を大切に過ごしてきた。その分例年以上に子ども同士、子どもと先生が豊かに関わり合える場面がみられた。私たちはこれからもこの新たな感染症とともに、社会で生きていかなければならない。予防対策をとり感染リスクを可能な限り低減させながら、安心・安全な状態で毎日の教育・保育活動を継続・充実させ、子どもたちの健やかな成長を保障していくことが必要である。
	令和3年度10月に高知県私立幼稚園連合会主催公開保育研修会が本園で開催される。本園の研究テーマ「意欲いっぱいの子どもを育てる～友達や先生とのかかわりを通して～」を実践研究し、互いに刺激し合い自ら学び続ける保育者集団として、質の高い教育・保育を目指したい。
	特別支援教育の理解を深め、該当児の今持っている力を精一杯発揮しながら可能性を最大限に伸ばしていけるように、個別の配慮をしながら発達の支援をしていく。また、保護者の思いに寄り添い、信頼関係を土台にきめ細やかな援助を行う必要がある。
	玄関から園児が駐車場に飛び出す事案が発生した。急遽玄関のドアの高い位置にサムターン式(内外から開閉できる)の鍵を取り付け、常時施錠するようにした。幼稚園の現場では、食事中や睡眠中、遊んでいる最中など、子どものあらゆる行動にヒヤッしたり、ハッとされる場面は数多く存在する。教職員は常にアンテナを高く張り、ヒヤリハットを感じた瞬間を逃さずその情報を共有し、直ちに改善・対策を講じるよう努めたい。

6. 学校関係者の評価

神田小学校校長……今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策で小学校でも休校の措置をとったり大きな行事が中止となったり、対応に追われた一年でした。幼稚園の現場でも、遊びの中で子ども同士の距離をとることは難しいので毎日緊張感をもって感染対策にご苦労されていることと思います。これからも、しばらくの間は新型コロナウイルスと向き合っていかなければなりません。コロナ禍であっても正しい知識を持ち科学的な感染対策を取りながら、健康で楽しい学校・幼稚園、子どもの学びと成長が保障される学校・幼稚園をめざし、お互いに連携しながら万全の体制を整えていきましょう。そして、杉の子幼稚園では園児の登降園の管理・保護者との連絡・書類業務の作成等「コドモン」という最先端のITツールを活用していることが素晴らしいと思いました。小学校でも、国が進める「GIGAスクール構想」により児童一人一台タブレット端末が今年用意されました。授業の効率化など期待の声は高まっていますが、急速に進むICT化に現場では試行錯誤が続いている状況です。また、働き方改革が提唱され、業務内容の見直しやICTシステムなどの、ITツールの活用も検討されています。業務時間の短縮や効率化が行われると、先生方一人ひとりの業務負担も削減されていきます。その結果、これまで事務作業にかけていた時間を、子ども一人ひとりと関わる時間に費やすことで、これまで以上に保育の質を向上させることができるのではないのでしょうか。ITツールの活用により更なる保育の質の向上に努めるとともに「やりがいのある職場」づくりに取り組まれるよう期待しています。

後援会会長……杉の子幼稚園の先生方はいつも笑顔で明るく迎えてくれています。特に若い先生方が、いっしょうけんめい子どもたちと関わり遊んでくれている姿をとっても嬉しく思っています。さて、今年度はコロナウイルス感染防止対策のため4月・5月と休園となり、年間を通していろんな行事が中止となりました。後援会活動も制限され、保護者が園に集まり互いに交流する機会が持てなかったのは残念でした。しかしながら、全国の感染状況を考えると不安も大きく、子どもたちの健康と安全を守るためには仕方がないことだと思います。限られた範囲のなかで後援会としてどのようなサポートができるか役員で知恵を絞り工夫をしながら、園に対してできる限りの協力ができたことは良かったと思っています。また、コロナ禍のなかでも先生方が感染対策を徹底しながら日々の保育教育活動に力を注いでくれたのはとてもありがたく思っています。遠足等で姉妹園のバスをお借りし5台に分乗することで密にならずに安全に出かけることができたのは杉の子の良さだと思います。また、四季の移り変わりや季節の行事を大切にされた教育環境の工夫が園長室だよりやブログから伝わってきました。季節を感じる感性や自然を大切にする心を育てておられることが素晴らしいと思います。今年度、保護者としては子どもたちの幼稚園での様子を見ることができず残念でした。ぜひコロナが収束すれば、参観日等子どもたちの普段の生活がもっと自由にみられるようお願いしたいと思います。

評議員……国の制度として令和元年10月より保育料の無償化が実施され、これまで以上に保育の質の向上と透明性、説明責任が求められています。私立幼稚園として建学の精神を生かしつつ公的な教育を担う機関として、この1年間の取り組みを自己評価し日々の保育をもっと高めたいという前に進む姿に感心しました。また、幼稚園の先生方がいつも元気で楽しそうに活動している姿をみて、しっかりとミッション意識をもち果たすべき使命や任務を共有できていることを感じています。評価項目の中で安全管理体制の強化について、厳しい自己評価がされていることに注目しました。安全はすべてに優先します。子どもたちの活動に伴う安全への配慮や注意喚起を最優先することが必要です。また火災や万一の自然災害に備えて、研修と訓練を実施することも重要な課題です。日々の保育の中で些細なことであっても危険を見逃さず、改善策を模索し子どもたちの安全を保障する取り組みは評価できます。今年度はコロナ禍のなかで、感染対策等教職員の皆さんは大変ご苦労をされたことと思います。園長先生はじめ教職員の皆様が、それぞれの立場で真摯な取り組みを続けられました。そのたゆまない努力と、固い団結のあゆみに心からの敬意と感謝を申し上げ、杉の子幼稚園の更なる発展をお祈りしています。

あたご幼稚園園長……未曾有の事態にも関わらず、主軸をブレさせず、子どもをいかに伸ばすかを、常に考えて来られた足跡を感じました。多くの制限があり、できることが少ない状況であったからこそ見えてきた事柄は、ズバリ「杉の子幼稚園に関わる全ての人々が笑顔になる幼稚園を目指す」であったということ。それそのものが、子どもをよりよく育て、園に関係する多くの方々を幸せにする営みであると実感できたのではなかったか？と感じられたことでした。これは、まさに宮地学園の根幹であると思われれます。

私たちの仕事は、多岐にわたり大変複雑な作業です。とても煩雑な日常ですから、保育の中で方向性を見失わないようにしていく作業が必要です。貴園では、今年、学園のランドマークとなる部分を先生方全員で実感しました。『今まで、当たり前にしてきたことが、本当に重要なことであった』と実感できたこと。研修等では学ぶことができないこの体験は、本当に素晴らしく貴重なことであったと思います。質向上という意味では、これ以上の成果はないと感じています。この体験が今後の保育力に繋がるはずと感じました。

私は、学校評価について、園が持っている力を再認識し、スタッフが自信を持って次に進んでいくための営みでありたいと考えています。それには、今自園が持っている素晴らしいものをしっかりと見つけ出し、それを更に素敵なものへと広げようとしていくべきであると考えています。課題や改善点をえぐり出すような作業をしているのは、先生方のやる気を削ぐだけでなく、自分の価値を低く捉えてしまうことに繋がりがかねない危険性があると思っています。一方、貴園の営みからは、振り返りによって自分たちのしっかりとした足跡を見つけ出したことによって、きっと「今年よく頑張ってきた」「やってよかった」と感じながら自己評価が進んだのだらうなと思えたことでした。こうでなければいけないと考えています。

このベクトルに気付けば、おのずと仕事が楽しくなると考えます。今後さらなるご活躍を楽しみにしています。